



平成24年9月3日（月）
利根川水系渇水対策連絡協議会
（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

平成24年度
第2回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会
（臨時）の開催結果について

『利根川上流ダム群、過去3番目に低い貯水量』
利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会開催される

- 開催状況 日時：平成24年9月3日（月）14:00～15:00
場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 14階 災害対策本部室
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構
協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
- 現状と今後の見通し（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダムの貯水状況 利根川上流8ダムは、この時期では過去3番目に少ない貯水量
（1億3,747万 m^3 、貯水率40%、平年比53%）
 - ・降雨の状況 栗橋上流域における8月の降水量は、平年を大きく下回る87mm
（平年比42%）
 - ・今後の見通し 今後も少雨傾向が続いた場合、利根川上流8ダムからの補給は更
に続くものと予想され、かんがい期における農業用水及び都市用水
の需要が継続する状況下において、現在のダム容量を有効に使うととも
に、必要に応じ取水制限等の対応を実施しなければならない事態も考え
られます。
- 今後の対策（詳細は、別添概要書参照）
 - ・取水制限等の対応については、各利水者において引き続き検討し、調整を図ること
としていきます。
 - ・水資源の有効利用を図るため、自主節水に努めるとともに幅広い広報活動を通じて、
利用者に節水への協力を要請していきます。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問い合わせ先

国土交通省	住所	〒330-9724
関東地方整備局		埼玉県さいたま市中央区新都心2-1
河川部水政課		さいたま新都心合同庁舎2号館
水政調整官 小池 勇 (内線) 3515	電話(代表)	048-601-3151
水政課長 澤田 晋 (内線) 3551	(水政課夜間直通)	048-600-1334
建設専門官 一條 勝志 (内線) 3557	(河川環境課夜間直通)	048-600-1336
河川部河川環境課		
河川環境課長 向井 正大 (内線) 3651		
建設専門官 吉川 宏治 (内線) 3652		

平成24年度第2回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会 (臨時)の開催結果について(概要)

1. ダムの貯水状況・積雪状況と今後の見通し

首都圏の水ガメである利根川上流8ダムと鬼怒川上流3ダムの9月3日時点の貯水量は、表のとおりであり、利根川上流8ダム、鬼怒川上流3ダムともに平年を下回る状況です。

	貯水量(貯水率)	平年比	備 考
利根川上流8ダム (9月3日0時)	1億3,747万 ³ m ³ (40%)	53%	平年を大きく下回る (H4~H23平均)
鬼怒川上流3ダム (9月3日0時)	7,002万 ³ m ³ (73%)	84%	平年を下回る (S60~H23平均)

平成24年8月の降水量は表のとおりです。

	累加降水量	平年比	備 考
利根川栗橋上流域 (8月)	87mm	約42%	平年を大きく下回る (S23~H23平均)
鬼怒川佐貫上流域 (8月)	109mm	約39%	平年を大きく下回る (S47~H23平均)

利根川上流ダム群は、7月1日には夏期制限容量に対して100%の貯水率となり貯水量を維持していましたが、7月末からの少雨の影響を受け、ダムからの補給量が急激に増加しています。

今後も少雨傾向が続いた場合、利根川上流8ダムからの補給は更に続くものと予想され、かんがい期における農業用水及び都市用水の需要が継続する状況下において、現在のダム容量を有効に使うとともに、必要に応じ取水制限等の対応を実施しなければならない事態も考えられます。

2. 今後の対策

①現在、利根川上流ダム群の貯水量は急激に低下しており、できるだけ早い段階で取水制限等の対応を行うことが必要であるとの共通認識を得たが、取水制限等の対応については、各利水者において引き続き検討し、調整を図ることとしていきます。

②なお、利根川に依存する利水者及び関係機関においては、水資源の有効利用を図るため各種用水の取水状況の把握と自主節水に努めるとともに幅広い広報活動を通じて、利用者に節水への協力を要請していきます。

※ ダムの貯水量及び貯水率の情報を、電話応答サービスにより、リアルタイムに提供しています。どうぞご利用下さい。

・利根川上流8ダム	五十里ダム	電話番号 027-255-5692
	川治ダム	電話番号 0288-78-0440
・鬼怒川上流3ダム	川俣ダム	電話番号 0288-78-0908
		電話番号 0288-96-0288
・二瀬ダム		電話番号 0494-55-0116

※ ホームページでもダムの情報をお届けしています。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000010.html>

(首都圏の水資源状況について)

利根川上流ダム群等の現状について



写真：矢木沢ダム

平成24年9月3日

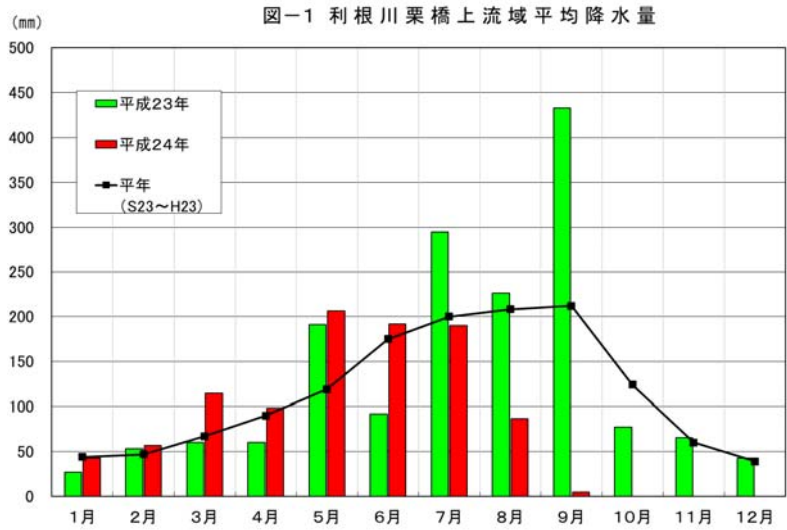
関東地方整備局

1. 利根川上流ダム群等の現況

1) 利根川

①栗橋上流域の降水量は、3月、5月を除きほぼ平年並みの降水量であったが、8月においては、87mm（平年比42%）で平年を大きく下回っています。（図－1、表－1）

また、前橋気象観測所の降水量は、図－2のとおりとなっており、7月前半にまとまった降水量があったものの7月後半以降は少雨傾向となり、特に8月においては、平年の約15%と大きく下回っています。（図－2）

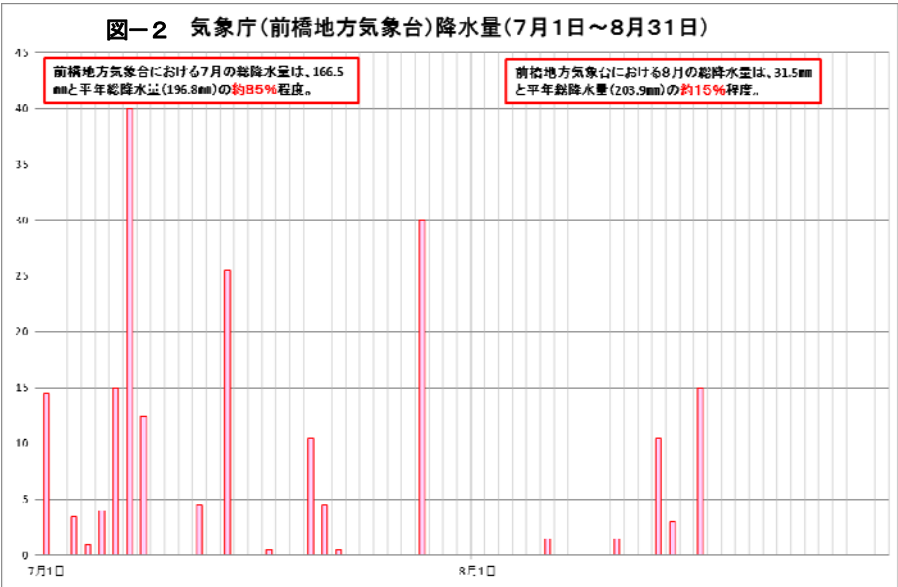


表－1 利根川栗橋上流域平均降水量（平成24年9月2日まで）

単位：(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘 要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	〃
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	〃
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成23年	27	53	60	60	191	92	295	226	433	77	66	43	1,623	
平年(S23-H23)	44	47	67	90	119	175	200	208	212	124	60	39	1,385	
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	18				1,006	
平年比(%)	97	121	171	109	173	110	95	42	8				73	

※. 利根川取水制限実施月（一時緩和含む）

※. 栗橋上流域面積 8, 588km²



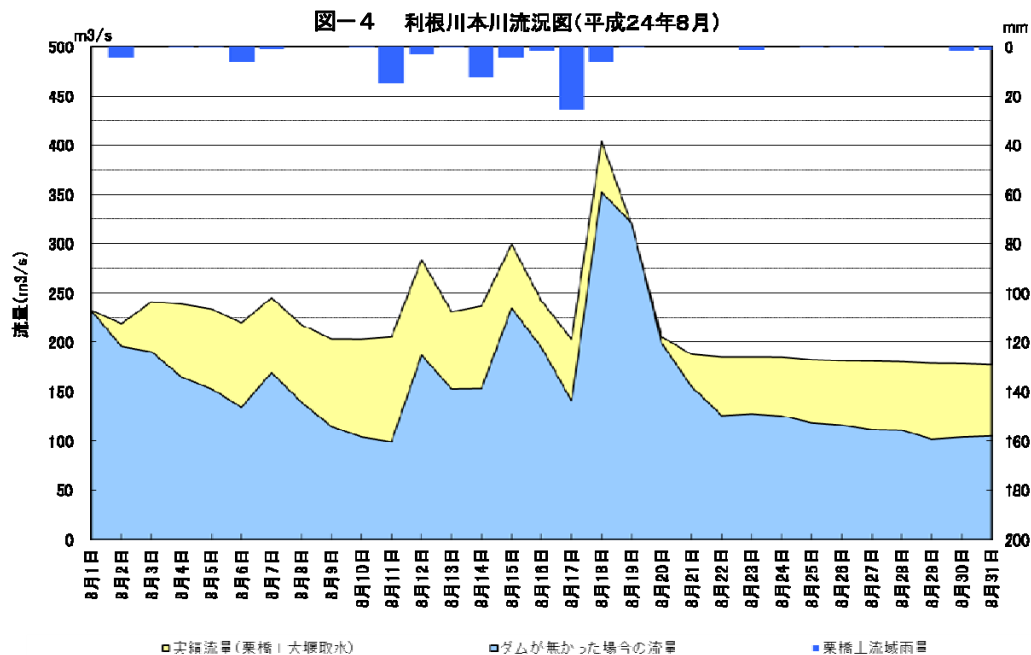
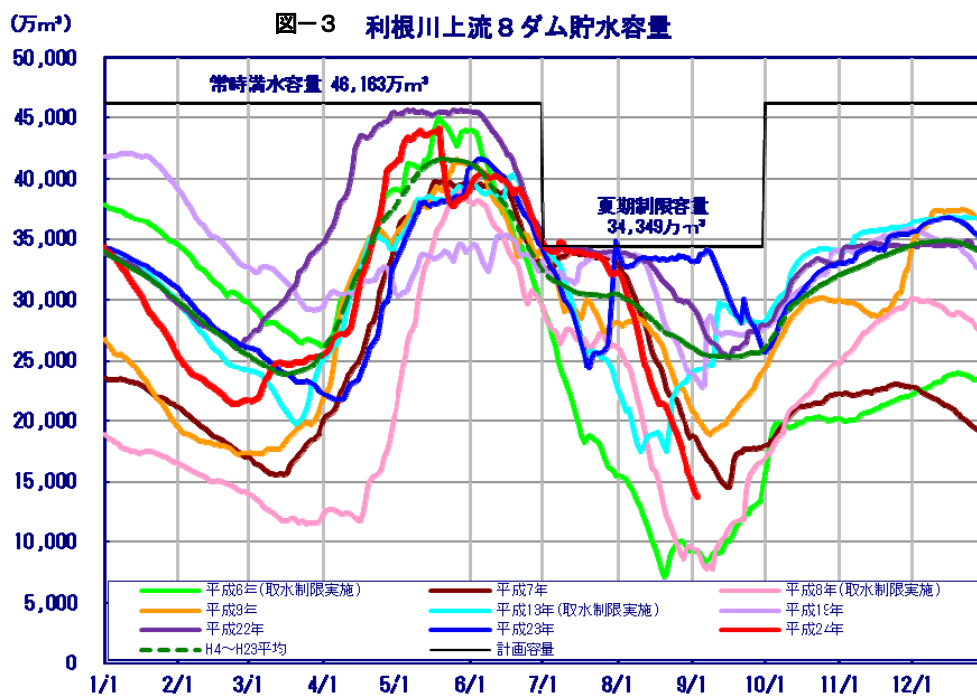
④利根川上流ダム群の貯水状況は、5月18日に起きた水質事故に対応するためダムからの放流を実施しましたが、その後貯水量は回復し、7月1日には夏期制限容量に対して100%の貯水率となり貯水量を維持しました。しかし、7月の後半からの少雨の影響から、8月には急激な貯水量の低下となり、これまで最大で約1000万m³/日の補給を実施し、8月の利根川の流況（栗橋地点流量+利根大堰取水）の約3割をダムの補給で補っています。9月3日時点で1億3,747万m³（貯水率40%、平年比53%）（表-2、図-3、4）となっています。

表-2 利根川上流ダム群の貯水状況(平成24年9月3日0時現在)

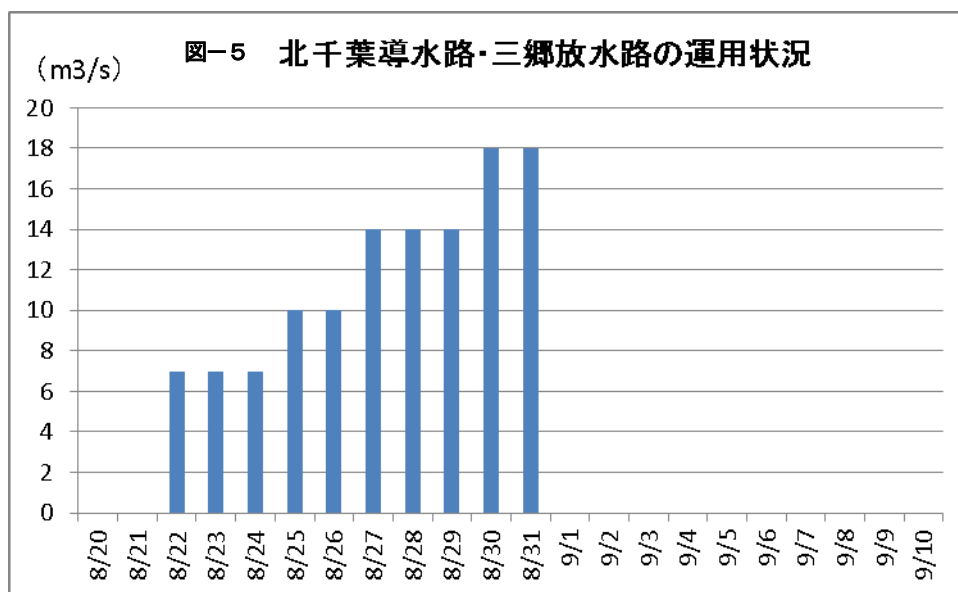
単位 (万m³)

	矢木沢	奈良俣	藤原	相俣	藺原	下久保	草木	渡良瀬 貯水池	合計	平年比
有効容量	11,550	7,200	1,469	1,060	300	8,500	3,050	1,220	34,349	-
貯水量	562	3,652	1,285	227	113	6,226	1,152	530	13,747	25,854
貯水率(%)	5	51	87	21	38	73	38	43	40	53

※：有効容量は、夏期制限容量。貯水率は、夏期制限容量に対する貯水量の割合。



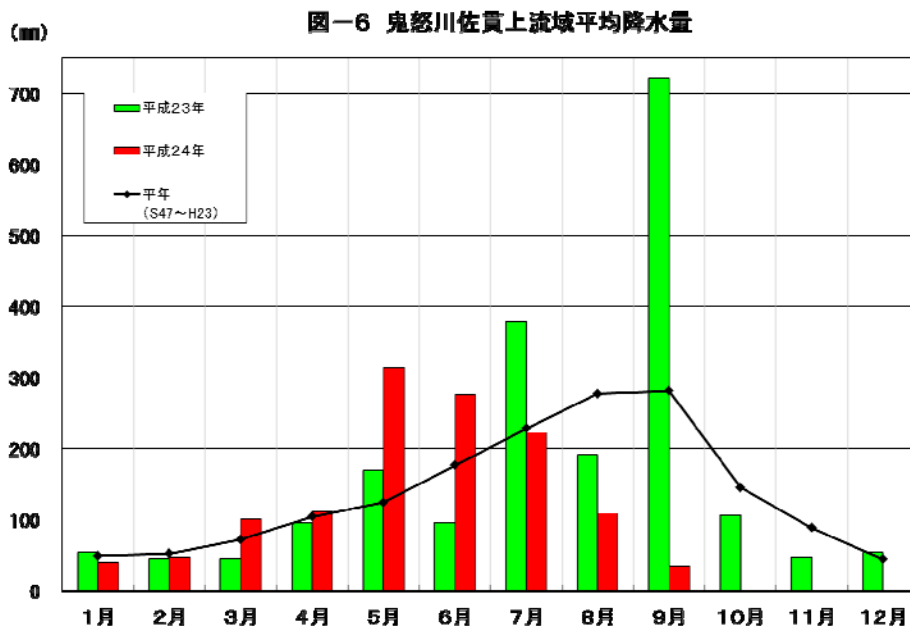
⑤北千葉導水路についても少雨による流況低減に対応するため８月２２日より運用を開始し、８月３１日までに最大１４ｍ³/ｓ、総量約９６０万ｍ³（１０日間）の導水し、現在も導水を実施しています。（図－５）



2) 鬼怒川

①鬼怒川佐貫上流域の平均降水量は、5月、6月が平年を上回り、その他の月は、ほぼ平年並みの降水量であったが、8月においては、109mm（平年比39%）で平年を大きく下回っています。（表－3、図－6、7）

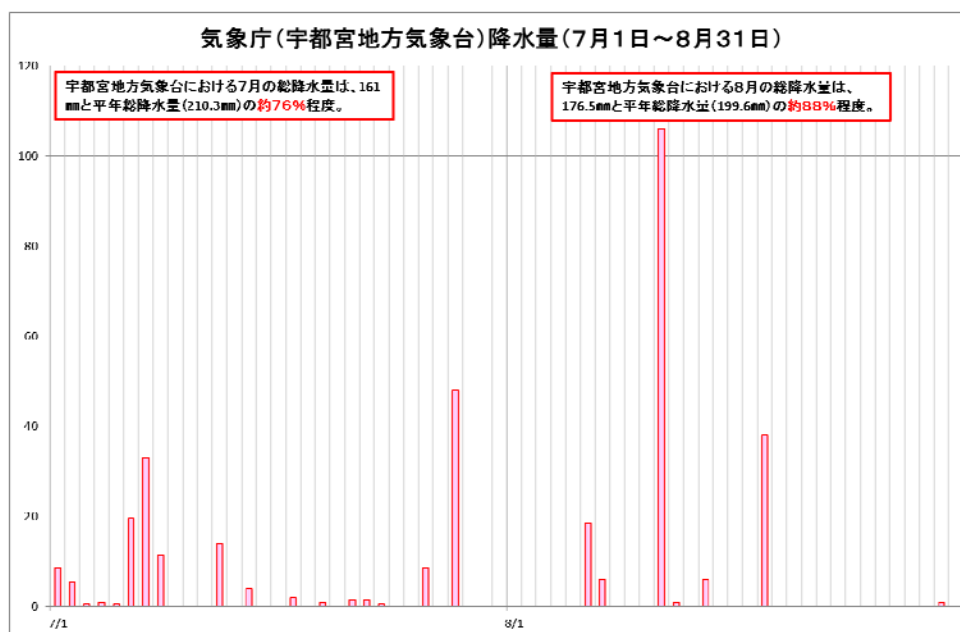
また、宇都宮気象観測所の降水量は、図－9のとおりとなっており、7月、8月ともに平年を若干下回っています。



表－3 鬼怒川佐貫上流域平均降水量（平成24年9月2日まで）

単位：(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘 要
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301	
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853	
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525	
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	
平成23年	54	45	45	95	169	96	379	191	721	106	47	54	1,987	
平年(S47~H23)	49	52	72	104	124	176	228	277	281	145	88	44	1,640	
平成24年	40	47	101	111	314	276	223	109	34				1,254	
平年比(%)	82	91	140	107	253	157	98	39	12				76	

※. 鬼怒川佐貫上流面積 940km²



②鬼怒川上流ダム群の貯水状況は、少雨の影響により流況低減に対応するため利水補給を実施しており、9月3日時点で7,002万m³（平年比84%）（表－4、図－8）となっています。

表－4 鬼怒川ダム群の貯水状況(平成24年9月3日0時現在)

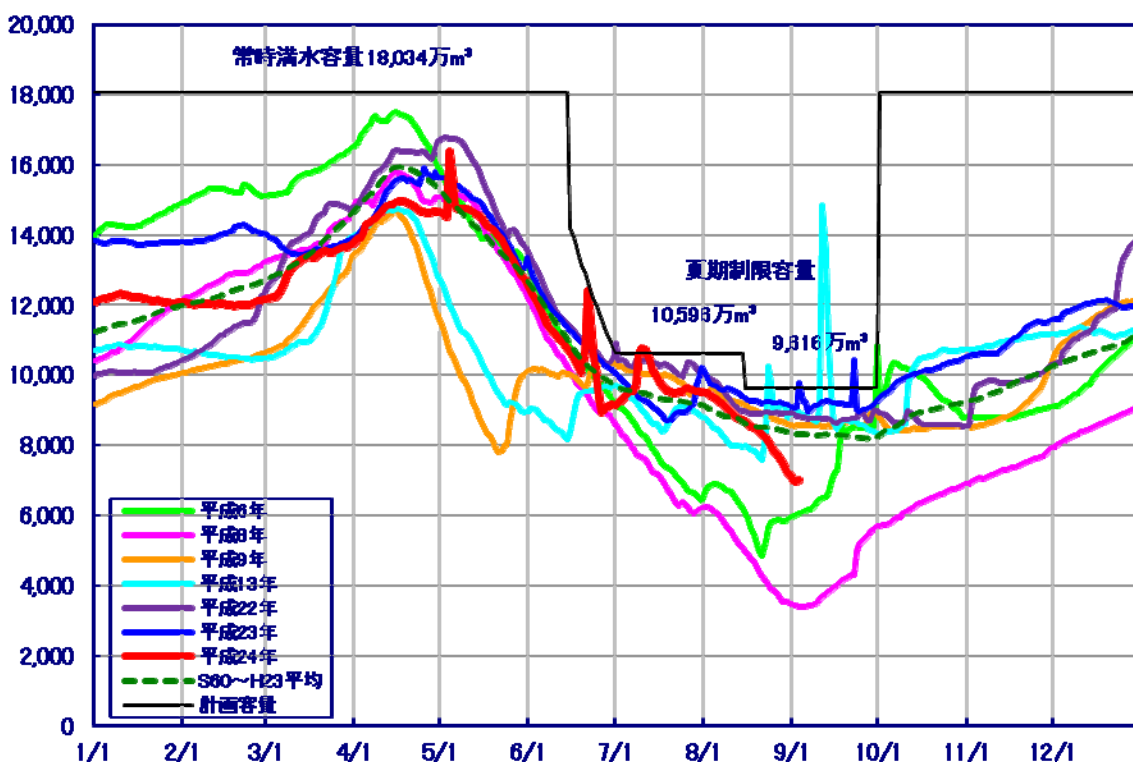
単位 (万m³)

	五十里	川俣	川治	合計	平年比
有効容量	758	4,858	4,000	9,616	－
貯水量	462	3,623	2,917	7,002	8,285
貯水率(%)	61	75	73	73	84

※：有効容量は、夏期制限容量。貯水率は、夏期制限容量に対する貯水量の割合。

(万m³)

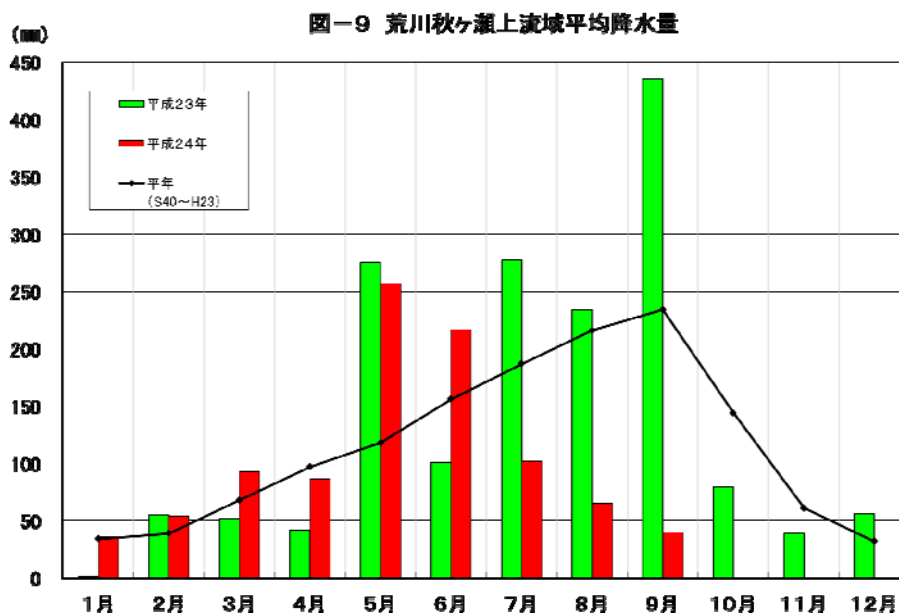
図－8 鬼怒川上流3ダム貯水容量



3) 荒川

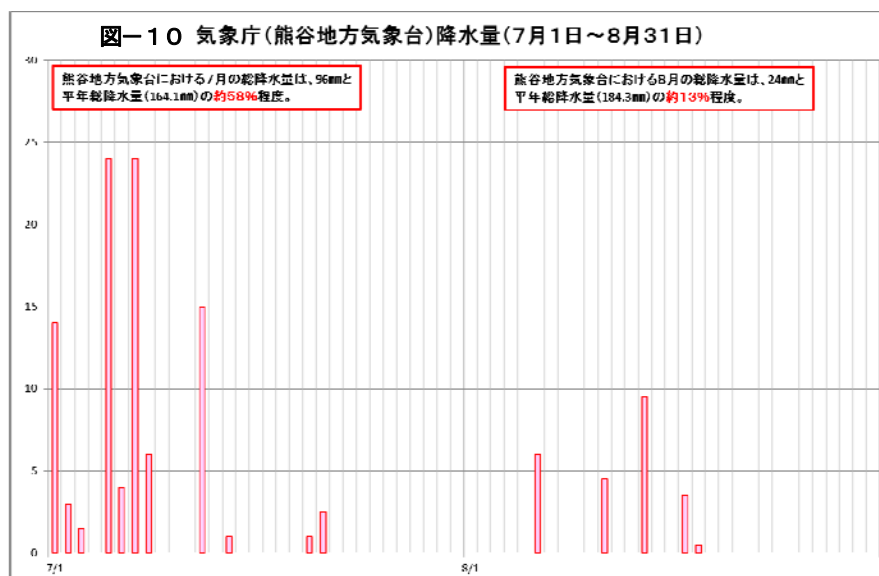
①荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、1月から4月がほぼ平年並み、5、6月が平年を上回りましたが、7月においては、102mm（平年比54%）と平年の半分程度の降水量となりました。また、8月においても、65mm（平年比30%）と平年を大きく下回っています。（図－9、表－5）

また、熊谷気象観測所の降水量は、図－10のとおりとなっており、前橋地方气象台と同様に7月前半にまとまった降水量があったものの、7月後半以降は少雨傾向となり、特に8月においては、平年の約13%と大きく下回っています。



表－5 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量（平成24年9月2日まで）

単位：(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘 要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	
平成23年	1	55	52	42	275	101	277	234	436	80	39	56	1648	
平年(S40~H23)	34	39	68	97	118	156	187	216	234	144	61	32	1,386	
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	40				948	
平年比(%)	106	138	136	89	217	139	54	30	17				68	

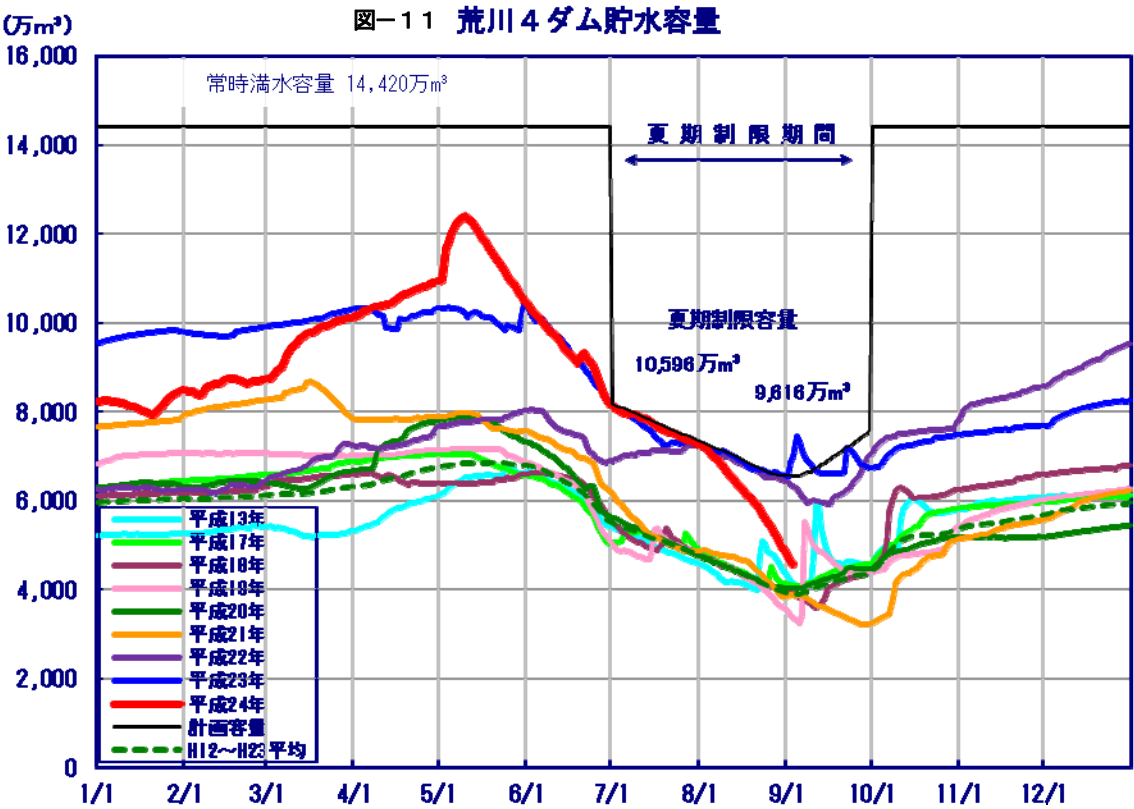


②荒川上流ダム群については、8月以降の少雨の影響による流況低減に対応するため利水補給を実施しており、8月上旬から貯水量が低減し、平成24年9月3日時点で4,478万m³（平年比115%）となっています。（表－6、図－11）

表-6 荒川上流4ダム貯水量（平成24年9月3日0時現在） 単位（万m³）

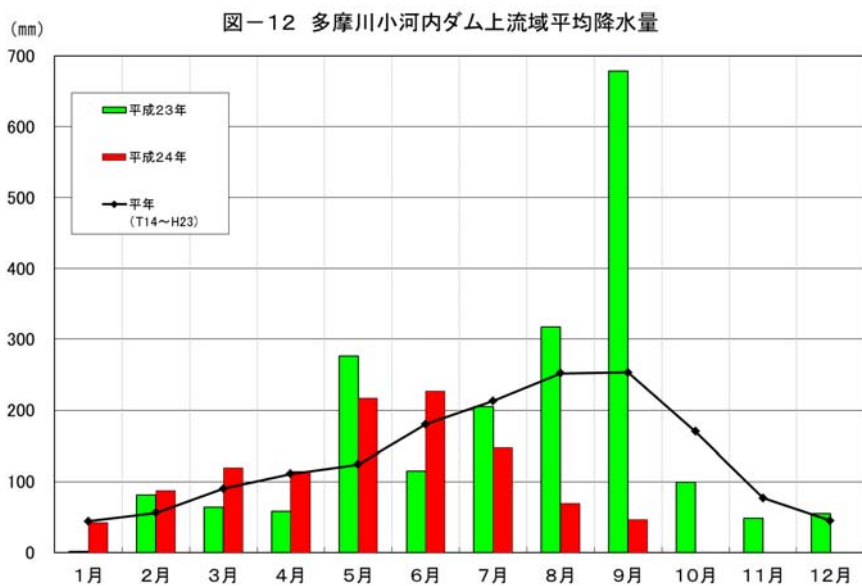
	二瀬	滝沢	浦山	荒川貯水池	合計	平年比
有効容量	0	2,500	3,300	760	6,560	－
貯水量	0	1,642	2,088	748	4,478	3,910
貯水率(%)	－	66	63	98	68	115

※. 有効容量は、夏期制限容量。貯水率は、夏期制限容量に対する貯水量の割合。
 ※. 平年比は3ダムに対するもので参考値



4) 多摩川水系

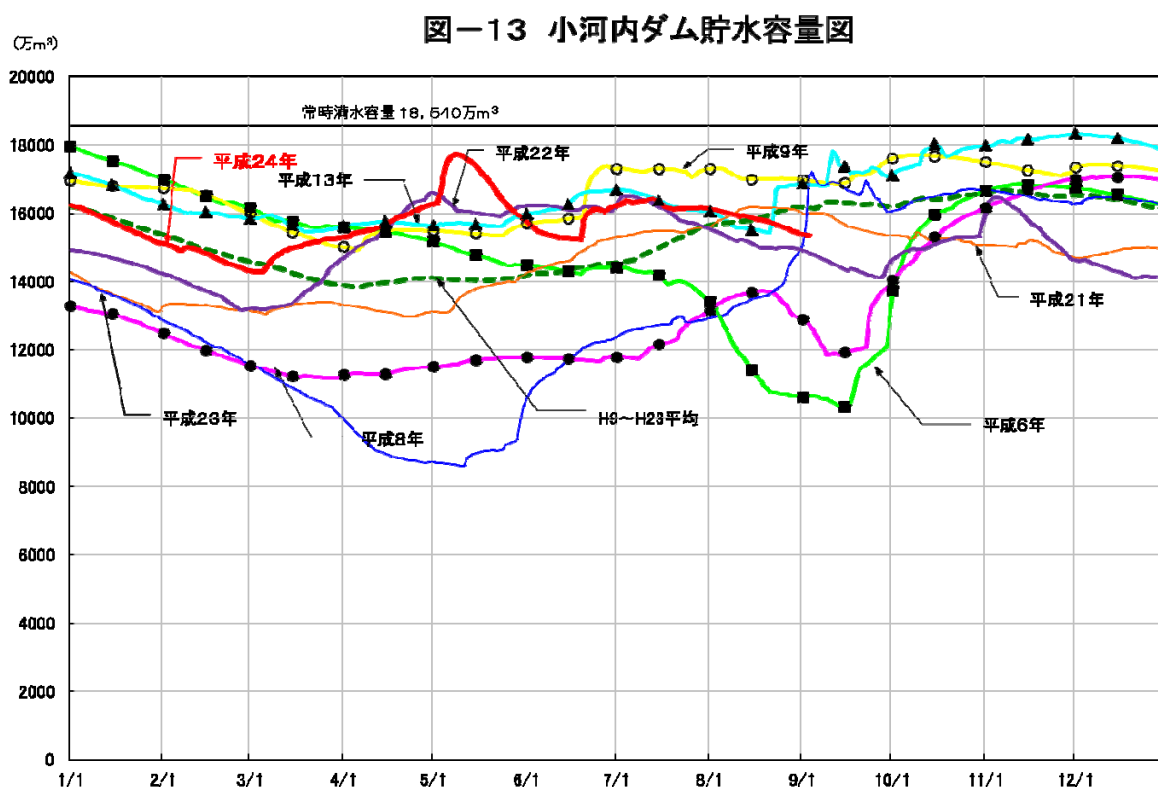
①小河内ダム上流域の降水量は、6月227mm（平年比126%）、7月147mm（平年比69%）、8月69mm（平年比27%）となっており、8月は平年を大きく下回っています。（表－7、図－12）



表－7 多摩川小河内ダム上流域平均降水量 (平成24年9月2日まで)

単位: (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成23年	2	81	64	58	276	115	205	317	679	99	48	55	1,999	
平年(T14-H23)	44	56	90	111	124	180	213	252	253	170	77	45	1,615	
平成24年	42	87	119	114	217	227	147	69	46				1,068	
平年比(%)	96	155	132	103	175	126	69	27	18				66	

②小河内ダムの貯水量は、平成24年9月3日現在で、1億5,353万m³（平年比96%）と平年並となっています。（図－13）



2. 今後の見通し及び対策（案）

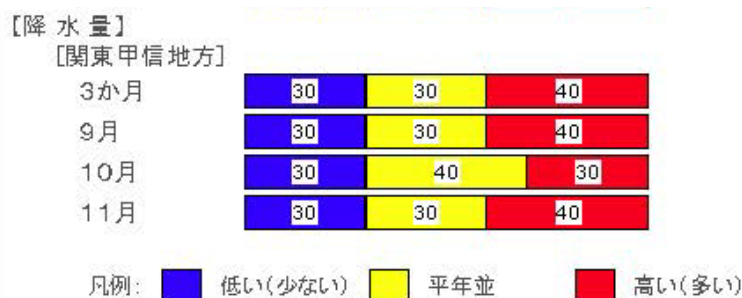
（1）見通し

①平成24年8月31日発表の気象庁の1か月予報によると、9月1日から9月30日の関東甲信地方の降水量については、「平年並み」となっており、8月23日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、「多い」か「平年並み」となっています。

1か月予報（平成24年8月31日発表）



3か月予報（平成24年8月23日発表）



② 利根川上流ダム群は、7月1日には夏期制限容量に対して100%の貯水率となり貯水量を維持していましたが、7月末からの少雨の影響を受け、ダムからの補給量が急激に増加しています。

今後も少雨傾向が続いた場合、利根川上流8ダムからの補給は更に続くものと予想され、かんがい期における農業用水及び都市用水の需要が継続する状況下において、現在のダム容量を有効に使うとともに、必要に応じ取水制限等の対応を実施しなければならない事態も考えられます。

（2）対 策

現在、利根川上流ダム群の貯水量は急激に低下しており、できるだけ早い段階で取水制限等の対応を行うことが必要であるとの共通認識を得たが、取水制限等の対応については、各利水者において引き続き検討し、調整を図ることとしていきます。

なお、利根川に依存する利水者及び関係機関においては、水資源の有効利用を図るため各種用水の取水状況の把握と自主節水に努めるとともに、幅広い広報活動を通じて、利用者に節水への協力を要請していきます。